

# 令和8年度 栄中学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：33007

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇「学ぶ力」育成に向けた5つのポイントでは、どの項目も市平均を上回っている。</p> <p>◇ICT端末の活用の効果やAARサイクルの視点で授業改善を積み重ねてきたことから、課題である「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」が昨年度より5%上回るなど、学習に対する意欲の向上が高まったと考えられる。</p>	<p>◇札幌市全体の共通指標から「自分で計画を立てて勉強している」「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している」の項目において、肯定的な回答が札幌市の平均より上回っているものの、他の項目よりも低い。子どもが自己決定する機会を充実させ、自らの成長や変容を実感し、次の行動につなげていける力を育てていきたい。</p> <p>◇「先生や家族以外にも、カウンセラーや相談窓口など、必要な時に悩みを相談できる大人がいる」この項目のみが、市平均を下回っている。学校だけではなく、地域全体で子どもの声を大切にしながら、教育環境を充実させていく。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇相互承認に関連する5項目は市平均を大きく上回り、本校の経年変化を比較すると、「自分が必要とされていると感じる」の項目は、昨年度他の4項目より10～19%低かったが、今年度は10～17%の差に縮んだ。各行事や総合発表の異学年交流、学級活動など様々な場面において適切なタイミングで自己を振り返ったり他者が評価することを大切にしてきたからと考えられる。感謝の言葉や相手のすばらしさを直接伝える活動を今後も大切にしていきたい。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 一人ひとりの「できる、わかる」を生かし、深め、学び合う力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<p>◇研究テーマ「全ての生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」</p> <p>→生徒の対話が膨らむような課題の設定や導入の工夫</p> <p>→生徒が履修知識を活かしながら、言語を用いて思考を表現する学習活動の場の設定</p> <p>→他者との対話や自己対話など思考が深まる学びの場面や、考えをまとめ発表する場面での効果的なICTの活用</p> <p>→自ら見通しを立て、学び直しや新たな学習方法を見いだすためのICTの活用、学習計画表等を活用した学習指導</p>	<p>◇よりよい学級・学年集団にするための活動の充実</p> <p>→学級のルールづくり 班長会議 一人一役の係活動 学年の委員会活動</p> <p>◇生徒会活動の充実</p> <p>→行事や委員会活動、学校生活において、生徒が主体となり、自分たちの問題を自分たちで解決し、自分たちの意思・行動で実現する</p> <p>◇小中交流、地域行事やボランティア活動の参加</p> <p>→母校訪問や生徒会・児童会交流（おはプロなど）</p> <p>→地域とのコミュニケーションを通して、大人が子どもの「～したい」を支える</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

